

## カポジ併発のステロイド抵抗性になった最重症アトピー性皮膚炎

35歳 男性      入院期間      2014/2/19～2014/5/19

学童期には肘関節に皮膚炎が生じたが15歳までで自然消退。24歳 手指に湿疹が生じるようになり近医通院しステロイド外用を使用し始めた、その後 改善悪化を繰り返しながら範囲は腕 肩 背部 腹部 両下肢 顔に次第に拡大 ステロイドもアルメタ→アンテベート→顔プロトピック 頭皮デルモベートローションに増強されたがアトピー性皮膚炎は10年間に全身に拡大した。2013.12月から下肢のしびれ 浮腫み 冷えを感じるようになった。2014.1月から下肢の浮腫から滲出液が生じるようになった。浮腫の悪化と膝の皮膚の苔癬化で下肢は硬直化し痛みで歩く事も苦痛になってきた。滲出液が増加し下肢に包帯をしても垂れるようになった。病院からは入院しステロイド内服を勧められたがステロイド治療に限界を感じ当院のHPを知り2/14入院を申し込んだが折しも顔を中心にカポジ（ヘルペスウィルスの感染）が生じ、急きよ2/19当院入院。入院直後は抗ウイルス薬の点滴療法を行いながらBSTを開始 ステロイド プロトピックは全く使用せず療養を行った。10年間のステロイド治療のリバウンドもあったが確実に最重症のアトピー性皮膚炎は改善し、薬剤はほとんど必要がなくなった。ステロイド プロトピックでコントロールできない最重症のアトピーの患者さんですが皮膚炎のマーカーであるTARCは3か月で18733→1235まで低下した。POEMは4まで低下自覚症状も大きく改善した。本来の自然環境に戻ればステロイドに頼る必要はない。一般ステロイド治療での10年を3か月で取り戻している。

	基準値範囲	2014/2/19	2014/3/19	2014/4/19	2014/5/12
TARC	450以下	18733	15532 ↓	2519 ↓	1235 ↓
LDH	120～245	614	545 ↓	267 ↓	248 ↓
IgE	170以下	2090	1952	1821	2008
好酸球	7%以下	17.6	26.0	14.6	17.4
POEM(自覚症)	最重症 20～28	*	27	20 ↓	4 ↓

2014/2/20



2014/5/12

